

ジェンスパークセミナー報告書

日時：2026年4月9日（木） 16:00～16:45

場所：東京ビッグサイト

セミナー名：ジェンスパークセミナー

講師：中島 隆行 氏（ジェンスパーク）

ゲスト：世田谷区役所 深山氏、下岡氏

1. セミナー概要

生成 AI の普及が進む中、現在は「AI エージェントと共に働く時代」に移行しつつあるという前提から講演が始まった。

AI エージェントは MCP（Model Context Protocol）を活用し、SNS などからプロンプトを入力して LLM を利用する仕組みが整いつつある。専用エージェントと共有ワークスペースを構築し、作業者との共同作業を行う環境が標準化していくという展望が示された。また、ワークスペース内にエージェント社員のスキル情報をカスタム保存することも可能で、これにより、組織内の知識活用がより高度化する点が強調された。

2. 世田谷区役所の事例紹介

ゲストとして登壇した世田谷区役所の職員から、ジェンスパークを活用した「世田谷プレス」制作の事例が紹介された。

区役所の業務は

調べる → 確認する → 整理する → 作成する

という一連の流れが中心であり、正確性・丁寧さ・作業スピードが求められる。

ジェンスパーク導入後は、

- 年間約 2,000 時間の作業削減
- 約 1,300 万円のコスト削減

という具体的な効果が得られているとの報告があった。

AI エージェントは「専用の相棒を作る」ようなものであり、ジェンスパークのワークスペース 4.0 や Office プラグインを併用することで、純正テンプレートを活用した効率的な文書作成が可能になるという説明もあった。⇒これはとても便利。

3. セキュリティと運用面の配慮

公共機関として最も懸念したのはセキュリティとプライバシーであったが、ジェンスパークには以下の安心材料があると紹介された。

(1) ジェンスパーク側の安全性

1. データ学習の禁止
2. 認証・管理手続きの厳格さ
3. 保存データの暗号化
4. 国内外のコンプライアンス基準への適合

(2) 運用側での対策

1. 公開を前提とした範囲のみを処理
2. ネットワーク単位でデータを分離 公共のネットワークには接続しない
3. データを学習・保存しない
4. 外部とのデータ連携を行わない

これらを徹底することで、公共機関としての採用に至ったとのことである。

4. 所感

セミナー内容自体は、ネット上で公開されている情報を超えるものではなかった。しかし、公共機関での実際の採用事例を直接聞いたことは非常に重みがあった。特に、セキュリティ面の懸念に対してどのように判断し、どのような運用ルールを整備したのかという点は、他組織にとっても参考になると思う。

ジェンスパーク(Genspark) - あなたを超える資料作成を、AIで

セキュリティ関係のジェンスパークのルールは他社と同様な一般的なもので、万全とは言えないので、運用面でのユーザ側の対応が必須となる。

5. 【使用した実感】

ジェンスパークではないが、同種の AI エージェントツールを使った実感を最後に書いておきたい。まだ、正式なリリースはされていないようだが、Copilot に付属して、オフィスエージェントと言うツールが使えるようになっている。それを使って練習問題をやってみた。AI エージェントに示したプロンプトと7分で実際に作成されたスライド最後に添付する。内容的にはこのままでは使えないが、修正前提の下書きとしては十分に使える。

AI エージェントが広く普及していくと、ユーザは「簡単に結果が得られる便利さ」に慣れ、深く考えずに AI の回答を受け入れてしまう場面が増えるだろう。

しかし、AI が提示する情報は常に正しいとは限らず、状況によっては誤った方向に導く可能性もある。だからこそ、AI の回答をそのまま鵜呑みにせず、内容の妥当性や利用可能性を自ら判断する力が、これまで以上に重要になる。

AI が高度化するほど、人間側には「判断力」「検証力」「情報の取捨選択力」といった基礎的なリテラシーが求められる。便利さの裏側にあるリスクを理解し、主体的に AI と向き合う姿勢が不可欠だと思うと同時に、AI についての格言を改めて噛みしめたい。

【AI はできる人には便利なツールであるが、できない人をできる人にする魔法ではない。】

■ 練習問題

【書いたプロンプト】：昨今のホルムズ海峡封鎖問題に鑑み、来年の就職事情はどうなるか3枚の説明資料スライドを作ってほしい。

